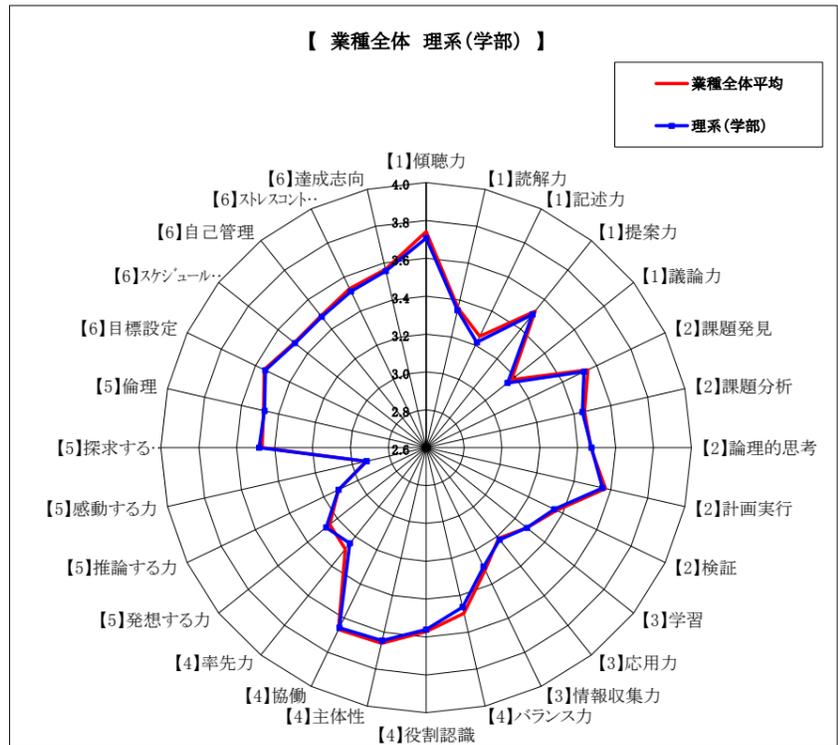
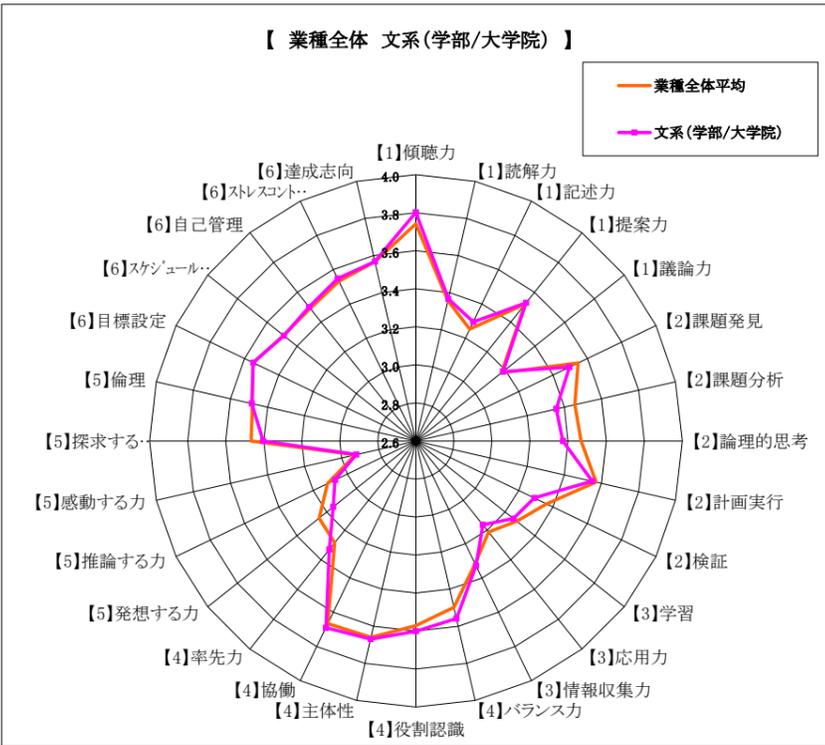


■ 全体評価

【図1】企業が入社時に求めるコンピテンシーレベルの平均値(文系総合・理系総合)



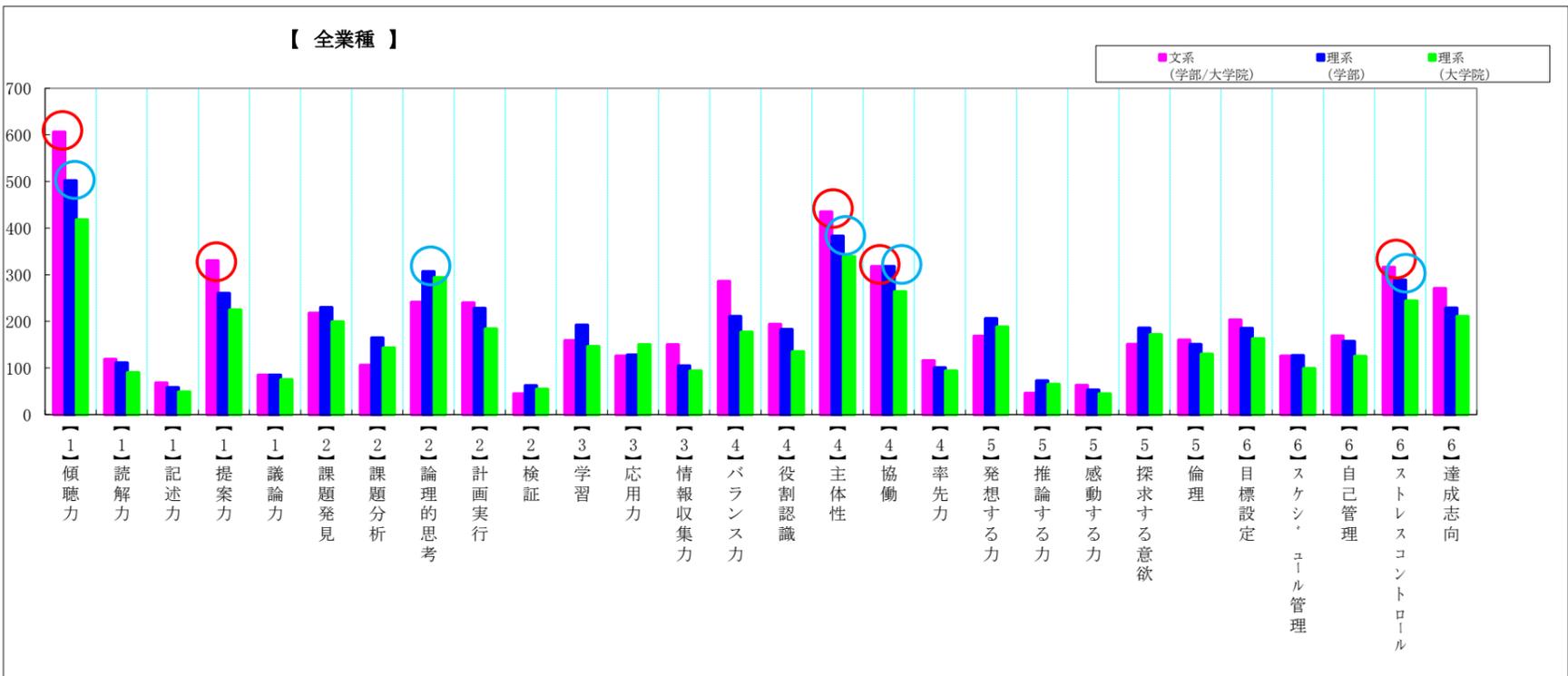
コンピテンシー上位5項目(文系)

1. 傾聴力	3.80
2. 協働	3.69
3. 主体性	3.67
4. 役割認識	3.60
5. 達成志向	3.57

コンピテンシー上位5項目(理系)

1. 傾聴力	3.71
2. 協働	3.66
3. 主体性	3.65
4. 役割認識	3.56
5. 達成志向	3.56

【図2】企業が入社時に特に重視するコンピテンシー項目(最大5項目選択)



特に重視するコンピテンシー上位項目(文系)

コンピテンシー項目	選択企業数
1. 傾聴力	606
2. 主体性	435
3. 提案力	330
4. 協働	318
5. ストレスコントロール	316

特に重視するコンピテンシー上位項目(理系)

コンピテンシー項目	選択企業数
1. 傾聴力	502
2. 主体性	383
3. 協働	318
4. 論理的思考	307
4. ストレスコントロール	289

回答総数1046社

回答総数1046社

●企業が入社時に求めるコンピテンシーレベルの平均値(図1)を見ると、文系・理系では大きな違いがないことが分かります。

●企業が特に重視するコンピテンシー上位項目からも、文系・理系問わず、「傾聴力」・「協働」・「主体性」を高く求めていることが伺え、「周囲の意見をしっかりと理解して、自分の意見だけでなく異なる意見を尊重しているか」、「組織の目標達成のためにお互いの考えを尊重し、信頼関係を築けるか」、「最終的には、物事を自分の意志・判断で責任を持って行動し、その行動に工夫や独自性を取り入れているか」といった点が高く求められます。

●上記に加えて、文系においては組織の中で働くうえで重要となる「提案力」や「協働」・「バランス力」、理系においては事象の本質を見抜き、ものごとを構造化できる「論理的思考」などが高くもとめられます。

●文系と理系で求めるレベルに差が生じたコンピテンシーには、文系が高かったものには、チームや組織として目標を達成するときに重要となる「バランス力」・「自己管理」、理系が高かったものには、既存の枠を超えて新たなものを産み出すことが出来る「課題発見」といった力が挙げられます。